

長崎県壱岐病院増築棟整備

基本計画

令和5年8月30日

長崎県壱岐病院

～ 目 次 ～

1. 計画概要

（１）「壱岐病院増築棟整備基本計画」の考え方

（２）壱岐病院の基本理念と目指すもの

2. 増築棟の計画

（１）施工条件等

（２）設置機能

3. 既存施設（改修部分）の計画

（１）設置機能

4. その他整備等について

1. 計画概要

(1)「壱岐病院増築棟整備基本計画」の考え方

- 長崎県壱岐病院は、平成17年3月に現在地に新築され壱岐市民病院として運営をはじめ、その後、平成27年4月に長崎県病院企業団に加入し、壱岐医療圏の中核病院として、安心・安全な医療、健康の維持・増進を図るため、質の高い医療を提供してきた。
- 現在、循環器、糖尿病・腎臓病など専門外来の開設等により患者数は順調に増加傾向にあるが、その一方で外来待合室のスペース不足等、既存施設の一部に狭隘化や機能劣化が目立つようになっている。加えて、感染症対策の強化や初期臨床研修医の受入環境整備など、新たな課題も出てきている。
- これまで、既存施設を最大限に活用するよう努めてきたが、その場しのぎの対応では限界に来ており、抜本的な課題解決を図るためには、**増築を含めた医療機能の再構築**が不可欠となっていることから、「壱岐病院増築棟整備基本計画」(以下、「基本計画」という。)を策定する。
- 本基本計画では**増築棟整備**のほか、**既存施設の改修、機能強化**などによる方向性を示している。

2) 壱岐病院の基本理念と目指すもの

- 患者さんが安心して治療・療養に専念でき、職員が希望と誇りをもって働く病院であり、先進的であたたかい包括医療ができる地域の中核病院を目指す。また、その機能は、地域全体で活用されるよう連携を密にし、若人がいつも集い、教育や研修が行われる病院を目指す。

（基本理念）

- 救急医療をはじめ、急性期医療の充実を図ります。
- 地域連携を進め、吉崎市全体の医療の質向上を図ります。
- 教育・研修の環境を整備し、学生をはじめ、多くの若人が集う地域を目指します。
- 医療と福祉の連携を強化し、快適な療養環境の整備に努めます。
- 予防医療を推進します。

【吉崎病院の目指すもの】

わたしたちは安全で安心して受けることのできる医療、ひとの心と地域を支えるための医療を提供します。

○ 救急医療体制の充実

常勤医師による当直体制を整備し、長崎県ドクターヘリや海上自衛隊のヘリ搬送を活用しながら、長崎県はもとより、福岡県域の高次機能病院との連携強化を図り、救急医療体制を充実させます。

○ 地域医療連携の推進

当院では、吉崎医師会と共に、地域医療連携を推進しています。

各開業医は、かかりつけ医として日常診療を行い、入院治療や手術が必要な患者さんは当院をはじめ、入院機能を有する病院で診断・治療を行う体制をとっています。

また、島内で完結できない高度医療については、福岡や長崎の高次機能病院と連携しています。

○ 教育研修体制の充実

研修医をはじめ若い医師が地域に根差したあたたかな医療現場を学べるよう、環境を整えます。現在 8 か所の基幹型病院と提携し、研修医の受け入れを行っており、年間約 40 名を数えます。

また、医師だけでなく、看護学生や理学療法科、薬剤部、医学部の学生も実習や研修に来ていただいています。

○ 予防医療の推進

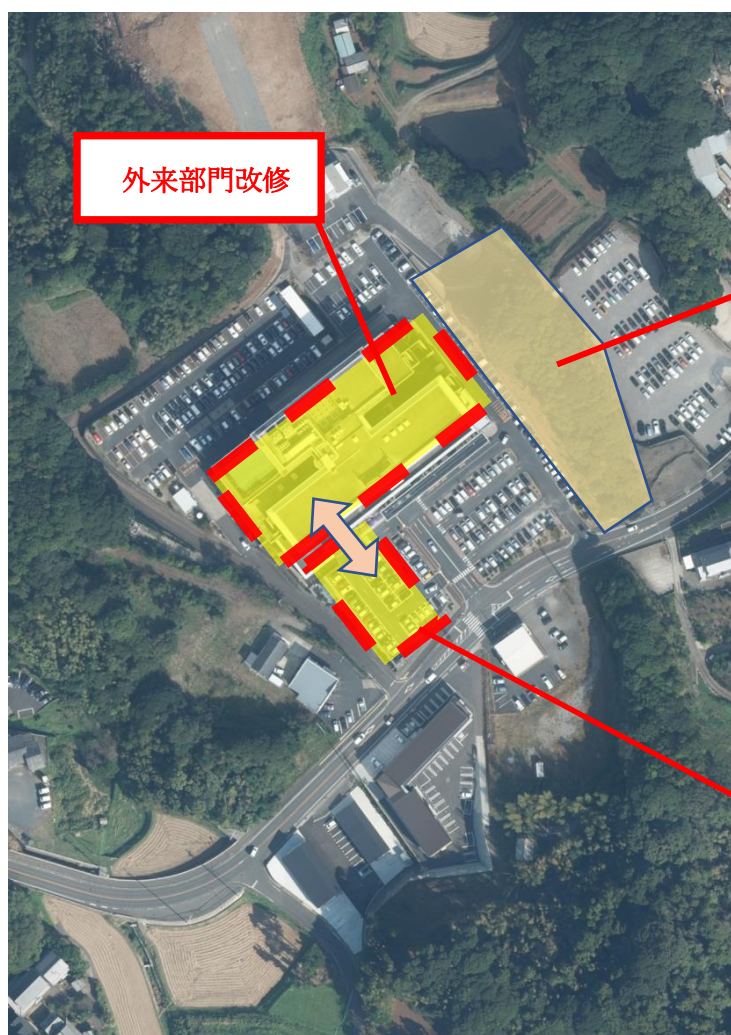
市民の健康増進と予防・病気の早期発見につなげるため、健診の拡充と受診率向上に努める。

また、2019年に福岡大学と、吉崎市及び吉崎医師会の間で、「保険医療に関する連携協定」を締結した。福岡大学と連携し、CKD、糖尿病、高血圧を中心とした診療体制強化を図り、予防医療の観点から、研究や研修、指導など、活動をさらに強化していく。

2. 増築棟の計画

(1) 施工条件等

- 敷地条件：病院前駐車場西側用地（約 850 m²）
- 施設条件：増築棟 約 1,750 m²
構造・階数 鉄骨造又は鉄筋コンクリート造、2階建又は3階建て
- 建設条件 工事種別：増築棟及び既存棟改修
予定工事費：1,040,000 千円（消費税を含む）
予定工事期間：増築棟：令和6年12月から令和7年11月※増築棟本体
令和7年11月から令和8年1月
※既存病院との接続通路改修
既存改修：令和8年2月から令和8年6月
※既存病院内改修
- 建設地：長崎県杵岐市郷ノ浦町東触 1626 番地



造成及び駐車場拡張工事

増築棟

外来部門改修

(2) 設置機能

○ 臨床研修指定病院機能

- ・離島での医師確保は依然として困難な状況にあるが、近年、長崎大学を中心とした地域枠の拡充もあり医学生は年々増加している。

このような中、長崎医療センターへ頼ってきた研修医受け入れが限界に達し、既に他の企業団基幹病院では、今年度から県養成医の初期臨床研修の受け入れを開始している。

壱岐病院においては、これまで年間入院患者数 3,000 人が隘路となっていたが、県の協力もあって、令和 7 年度からの「基幹形臨床研修病院」の指定を目指すこととしており、離島で養成する研修医が、将来離島で勤務するモチベーション向上へ働くことが期待されることから、初期臨床研修医の受入環境の早急な整備が必要である。

初期臨床研修医受入のため、研修医室、カンファランス室及び図書室機能を整備する。

○ 心臓カテーテル室

- ・当院では年間 1,200 台を超える救急車受け入れを行っているが、その内、島外へ救急搬送件数は 60 から 80 件で推移しており、救急心疾患（心筋梗塞）は年間疑いを含めて 250 件に上る。

このうち、当院では心臓カテーテル検査や治療が出来ないため、約 30 件程度の心筋梗塞等救急疾患を島外医療機関への搬送となっている。

これまでも夜間や天候不良等の悪条件で患者搬送が的確に行えないこともあり、島内での検査体制の整備が求められている。

救急患者件数及びドクターヘリ等搬送件数

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
救急車搬送	1,023 件	1,143 件	1,262 件
島外搬送件数	59 件	78 件	65 件

○ 健康増進部門（仮称）

- ・予防医療は当院が掲げている診療機能の大きな柱であり、年次推移では特定健診のみならず、事業所健診も含め年々増加している。

疾病構造の変化から、がんの早期発見と共に生活習慣病（慢性腎臓病、糖尿病、高血圧性心疾患）の予防対策は重要であるが、現在は健診部門が複数に散在し、利用者にとっても不便であるとともに、待合や診察室が狭隘でコロナ感染対策上もたびたび業務休止を余儀なくされている。

増築棟に健康増進部門（仮称）として新設することで、さらなる受診者数の増加を図るとともに、今後、壱岐市との業務提携を視野に健診業務の拡充と質の向上を図りたい。

また、市が行っている乳幼児健診についても増築棟で行うよう施設の拡充を図る。

健診受診者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
患者数	6,238 件	6,414 件	6,378 件

○ 化学療法室

・当院では2014年から外来化学療法を始めた。これまで島外の医療機関でがん治療を受けていた患者さんも、当院で治療を受けることができるようになり、患者数も年々増加の傾向にある。患者の増加に伴い、現在の化学療法室では狭く、安心して受診していただくことが困難な状況であるため、増築棟への移設・拡充を行う。

外科化学療法件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
患者数	263 件	382 件	338 件

○ 外来診療

・外来診療における質の確保を図るため、専門外来を開設したことにより、島外での診療を余儀なくされていた患者の多くが当院を受診することとなり、診療単価の増につながっている。

一方、患者数については逆紹介を推進すること（安定した患者はクリニックへ紹介）で、島内医療機関との共存を図ってきた。

現在の外来待合室の狭隘化や機能劣化が目立ち、感染症対策も含め待合室を改修する必要があるため、本館の外来診療の一部を増築棟に移設することで、患者の分散を行い狭隘化の解消を図り、待合スペースにゆとりをもたせる。

耳鼻科、泌尿器科、皮膚科、精神科の増築棟への移設を検討している。



3. 既存施設（改修部分）の計画

（1）設置機能

○ 中央処置室、救急処置室の改修

- ・中央処置室及び救急処置室は診療スペースが狭く、救急患者等の対応に苦慮しているため、ゆとりあるスペースの確保を図る。



○ その他

- ・増築棟へ健診及び外来の一部を移設することで、既存施設に余裕ができることから、空きスペース等を活用し、診療関連及び看護師が安心して作業できるスペースの確保と患者が受診しやすい環境への改修を行う。

4. その他整備等について

○ 病院駐車場拡張（造成工事） ※別途発注

- ・外来患者の増加に伴い、午前の時間帯によっては駐車困難な状況が見受けられる。

また、増築棟建設に伴い駐車可能台数減（▲40台）となるため、東側山地を造成し、代替駐車場の確保（＋70台）を図る。